

△ 西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一七七五	安永4	4頃	豊竹定吉座	競伊勢物語 全部五冊	※角書「大和 筒井里ノ河内 生駒山」。 ※絵尽に右の内題、下に「座本 豊竹定吉 太夫 豊竹島太夫」とある。 ※この年4月5日から大阪嵐松治郎座で同外題の歌舞伎が演ぜられ、それが直ちに読本浄瑠璃として版行された。それを操芝居としたもの。従って、本年4月5日以後（あるいは5月頃か、歌舞伎上演と近いであろう）。島太夫の動向から8月の京都における上演以前のはず（『義太夫年表 近世篇』）。	
△ 一七七五	安永4	8/12～	京都万太夫座	競伊勢物語 [全部五冊物]	初段（大序 阿蘇、中 律、次 繁、中[口] 宇佐、中 井筒、切 絹）、二段目（口 律、中 桑、切 春）、三段目（口 繁、次 三好、中 桑、切 島、道行 春・ツレ 三好）、四段目（口 伊奈、中 春、切 絹）、五段目（宇佐）。 ※角書「大和に筒井里ノ河内に生駒山」。 ※[ ]内と人形役割は東京藝術大学附属図書館蔵「近世邦楽年表基本カード」に、その他は『近世邦楽年表 義太夫節之部』に拠る。	春日野しのぶ（門蔵）、春日野豆四郎（東作）、五作（源七）、大きばの小よう八（音蔵）、川しまてんぜん（藤五郎）、母小よし（門三郎）、紀有常（文三）、在原業平（弥吉）、井筒姫（平蔵）。
一八一―	文化8	7	大西芝居	競伊勢物語 大序より 三段目迄	大序（鶯、稲、歳）、序中（重）、角力（灘、河内）、初段（切口中、切 鐘、跡 伊達）、二段目（口 重、中 伊達、内匠、切 染）、三段目（口 錦、切口 鐘、中 染、切 土佐）。 ※角書「大和に筒井里ノ河内に生駒山」。 ※この興行には別番付があり、その役割は次の通り。大序（鶯、稲、歳）、角力（灘、河内）、初段（切口中、切 錦、跡 伊達、口 重）、二段目（口 内匠、中 伊達、次 津賀、切 染）、三段目（口 錦、中 津賀、染、切 土佐）。	娘しのぶ（辰造）、豆四郎（千次郎）、水茶や五介（鬼市）、どらのにやう八（冠四）、天ぜん（元五郎）、母小よし（千四）、紀の有つね（音五郎）、有わらのなり平（千次郎）、井づゝひめ（音蔵）。
一八一三	文化10	7/17～	御霊社内	競伊勢物語	三段目（口 三保、中 生駒、源、切 土佐）。	娘しのぶ（重五郎）、豆四郎（千次郎）、どらのみやう八（弥三郎）、川しまちから（定二）、ばゝ小よし（千四）、有つね（九光）、なりひら（千次郎）、井筒姫（重五郎）。
一八二五	文政8	1/23	江戸薩摩座	増補競伊勢物語 三段目迄	大序（口 道、奥 多賀）、序切（中 桑、切 下り 雛）、二段目（口 八尾、奥 門、口 道、次 三根、中 下り 房、切 津賀）、三段目（口 組、中 下り 雛、奥 津賀、切 播磨大掾）。	しのぶ（弥市）、豆四郎（半三郎）、五郎作（三吾）、どらのもよう八（清五郎）、川島曲膳（伝蔵）、母小よし（幸五郎）、紀の有経（肥後大掾）、業平（半三郎）、井づゝひめ（弥市）。
一八二六	文政9	9/23～	稲荷社内	競伊勢物語	三段目（口 杣、おく 錦、口 長門、中 湊、切 播磨大掾）。 ※角書「大和に筒井の里ノ河内に生駒山」。 ※語り「かすがのゝ若紫のすり衣しのぶのみだれかぎりしられずノみるめかるなきかたいつこさほさして我におしへよ海士の釣舟」。	しのぶ（才治）、豆四郎（岩五郎）、どらのもう八（千四）、小よし（千四）、ありつね（熊造）、なりひら（岩五郎）、いづゝひめ（才治）。
一八三三	天保4	4/16～	御霊社内	競伊勢物語	三段目（口 当磨、中 当賀、切 組）。	娘しのぶ（国八）、豆四郎（喜十郎）、水茶や五介（鉄造）、どらのもよう八（新吾）、川しま典膳（玉造）、母小よし（東十郎）、紀ノ有常（新吾）、なりひら（喜十郎）、井づゝひめ（国八）。

「競伊勢物語」上演年表

一八三四	天保5	3/11~	いなり社内	競伊勢物語	三段目(島、口谷、中三根、切住)。	娘しのぶ(辰五良)、豆四郎(清七)、どらのによう八(徳蔵)、川しまてんぜん(平吉)、母小よし(門蔵)、ありつね(金四)、なり平(安次郎)、いづゝひめ(猪三郎)。
一八三四	天保5	11	京誓願寺芝居	競井瀬物語	玉水の段(口多満)、小よし住家の段(中当の、切組=伝吉)。	しのぶ(江戸一橋)、豆四郎(冠四)、二王八(新吾)、代官(伊右衛門)、小よし(冠蔵)、有常(新吾)、なり平(冠四)、いづゝひめ(江戸一橋)。
一八三五	天保6	3	北ほり江市の側芝居	競伊勢物語	玉水淵のだん(多満)、春日村の段(中当磨、切鞆)。	しのぶ(国八)、豆四郎(新三)、五さく(亀二)、にやう八(新吾)、典ぜん(善十郎)、母小よし(清七)、有つね(一橋)、なり平(新三)、井づゝひめ(国八)。
一八三六	天保7	5	北ほり江市ノ側芝居	競伊勢物語	玉水のだん(口絹、おく歳)、小よし住家のだん(口多満、中此、切司)。	娘しのぶ(三吾)、豆四郎(喜十郎)、どらのによう八(一喬)、川しま典膳(新十郎)、春日ノ小よし(冠蔵)、紀ノ有常(与十郎)、なり平(喜十郎)、みづゝひめ(三吾)。
一八三六	天保7	9	座摩裏門境内	競伊勢物語 三だん目	春日村のだん(口多満、中浪、切組)。	娘しのぶ(兵吉)、豆四郎(文造)、どらのにやう八(金三)、川島てん膳(繁次郎)、母小よし(文三)、紀ノ有常(国五郎)、在原業平(文造)、井筒ひめ(猪三郎)。
一八三八	天保9	2/16~	稲荷社内東芝居	競伊勢物語	玉水淵の段(岡)、春日村のだん(口越、中勢イ見、切鞆=咲治)。 ※角書「大和二筒井里ノ河内二生駒山」。	娘しのぶ(辰五郎)、豆四郎(勝造)、どらのによう八(徳造)、川島典膳(徳治郎)、もじ摺小よし(門蔵)、紀ノ有常(金四)、在原業平(勝造)、井筒姫(咲造)。
一八三八	天保9	8	北新地芝居	伊勢物語	玉水のだん(伊勢、吉田兵吉ノ此所出つかい早かわり)、小よし住家ノ段(口当磨、中実、切組)。	しのぶ(国八)、豆四郎(文蔵)、茶店五介(清五郎)、どらのみやう八(兵吉)、代官典ぜん(為五郎)、小よし(文三)、紀ノ有常(兵吉)、業平(文蔵)、いづゝひめ(国八)。
一八三八	天保9	8	京四条道場芝居	競伊勢物語 三段目	小よし住家のだん(口当磨、中伊勢、切組)。	しのぶ(国八)、豆四郎(文蔵)、どらのにやう八(九幸)、代官典ぜん(為五郎)、小よし(文三)、紀ノ有つね(兵吉)、業ひら(文蔵)、井づゝひめ(国八)。
一八三八	天保9	11	兵庫兵庫芝居	競伊勢物語	小よし住家のだん(口当磨、中小野、切組)。 ※角書「井づゝノ業平」。	娘しのぶ(国八)、豆四郎(新五郎)、どらのにやう八(国五郎)、川島てん膳(伊作)、母小よし(冠四)、紀ノ有つね(新吾)、在原業平(新五郎)、井づゝ姫(国八)。
△一八三九	天保10	5/15	阿波三島宮	(伊勢物かたり)	※組太夫浄瑠り芝居。 ※『元木家記録』に拠る。	
一八四一	天保12	8/19~	御霊芝居	競伊勢物語 三段目	小よし住家のだん(口富、中佐賀、切勢見)。	娘しのぶ(清十郎)、豆四郎(新治)、水茶や五さく(工十郎)、によう八(文五郎)、川しま典膳(宗十郎)、母小よし(国五郎)、紀あり常(門蔵)、なり平(宗十郎)、井づゝ姫(清十郎)。

一八四二	天保13	1/8~	座 摩 社 内	はでくらべ伊勢物語	玉水(淀)、小よし住家(千里、富、大和)。	娘しのぶ(門蔵)、豆四郎(小辰)、どらノによろ八(福之助)、百済典膳(初三郎)、母小よし(一暎)、紀ノ有常(文三)、在原業平(小辰)、井づゝ姫(門蔵)。
一八四二	天保13	1/9~	座 摩 地 内	競伊勢物語三だん目	小よし住家(千里、富、大和)。 ※前項と同一興行と思われるが、番付の日付が異なる(『義太夫年表近世篇』)。	娘しのぶ(門蔵)、豆四郎(小辰)、どらノによろ八(福之助)、百済典膳(初三郎)、母小よし(一暎)、紀ノ有常(文三)、在原業平(小辰)、井づゝ姫(門蔵)。
一八四二	天保13	10	京 四 条 南 側 大 芝 居	競伊勢物語	小よし住家段(口 鷹、切 大登)。	
一八四二	天保13	12	西 宮 西 宮 芝 居	競伊勢物語	小よし住家の段(口 三隅、切 大和)。	娘しのぶ(八蝶)、豆四郎(冠三)、小よし(国五郎)、紀ノ有つね(金三)。
一八四三	天保14	2/28~	北 堀 江 市 の 側 芝 居	競伊勢物語三だん目	玉水淵の段(喜代)、春日の里のだん(中 勇、おく 越、切 勢イ見)。 ※角書「大和二筒井里ノ河内ニ生駒山」。	娘しのぶ(辰造)、豆四郎(咲造)、どらノによろ八(徳蔵)、川しま典膳(市松)、小よし(辰五郎)、紀ノ有つね(金四)、在原業平(卯之助)、井づゝ姫(徳十)。
一八四三	天保14	5/16~	京 四 条 北 側 芝 居	競伊勢物語	春日村の段(口 広、中 富、切 山登)。	しのぶ(国八)、豆四郎(文蔵)、妙八(福之介)、小よし(東三)、紀ノ有常(一暎)、井づゝひめ(亀二郎)。
一八四四	天保15	3	道 頓 堀 竹 田 芝 居	競伊勢物語	玉水ノ段(茂)、小よし住家のだん(口 当久、中 多満、切 鞆)。	しのぶ(清十郎)、豆四郎(国三郎)、どらノ如八(金吾)、川島典ぜん(栄次郎)、母小よし(国八)、紀ノ有常(門蔵)、なり平(栄次郎)。
一八四六	弘化3	5/9~	京 左 女 牛 北 側 芝 居	伊 勢 物 語	三段め(鞆)。	
一八五一	嘉永4	5/13~	江 戸 東 両 国	伊 勢 物 語 り	三段目(木尾=勇吉)。 ※「咲揃皐月の植込」の内。	
一八五一	嘉永4	8/1~	清 水 町 浜	伊勢物がたり	三(文=清兵衛)。	
一八五二	嘉永5	8/1~	京 寺 町 寅 や く し	伊 勢 物 語	三(生駒)。 ※「かげゑ」浄瑠璃興行。	
一八五四	嘉永7	10/13~	京 四 条 北 側 大 芝 居	伊 せ 物 語	三(生駒)。 ※素浄瑠璃。	
一八五五	安政2	1頃	天 満 裏 門 常 小 屋	競伊勢物語三段目	玉水淵のたん(理=団十郎)、小よし住家のたん(越=竜七、長尾=団平)。 ※『浄瑠璃大系図』は初日を2日とする。	
一八五六	安政3	1	堺 堺 新 地 南 芝 居	競伊勢物語	春日村のだん(口 大浪、成勢、切 長尾)。	
一八五五 ~ 一八五六	安政2 ~ 安政3		京 蛭 子 屋 吉 郎 兵 衛 座	伊 勢 物 語	三段め(百合=音吉)。	

一八五七	安政4	5	天 満	伊 勢 物 語 三段目	春日里小よし住家のだん（光木事改 光=咲造）。 ※角書「信夫／豆四郎」。	
一八五七	安政4	9/9～	京 四条寺町道場 北新席	伊 勢 物 語 三段目	小よし住家段（口 久我、切 長尾）。	
一八六一	文久1	3/3～	稲荷社内東芝 居	競 伊 勢 物 語 三段目	玉水淵之だん（むら）、春日村のだん（中 長枝、次 弥、切 長登）。 ※『浄瑠璃大系図』には3月3日初日とも、2月25日初日ともある。	娘しのぶ（松栄）、豆四郎（新五郎）、どらのにやう八（才治）、代官曾平（庄吉）、母小よし（喜十郎）、紀ノ有常（玉造）、在原業平（辰十郎）、井筒姫（小玉）。
△ 一八六一	文久1	10	御 靈 裏 門	競 伊 勢 物 語	玉水淵の段（千鳥）、春日村の段（鳴瀬、春戸、富司）。 ※首振芝居。 ※『近世邦楽年表 義太夫節之部』に拠る。	
一八六二	文久2	1	京 四条南側大芝 居	競 伊 勢 物 語 三段目	小吉住家の段（口 氏戸、中 富、切 長尾）。	
一八六二	文久2	3	座 摩 裏 門	競 伊 勢 物 語 三段目	小よし住家の段（口 氏戸、中 浪、切 長尾）。 ※角書「信夫／豆四郎」。	
一八六四	元治1	8/26～	天 満 戎 門	競 伊 勢 物 語	小よし住家の段（口 虎、中 鳴門、切 長尾）。	
一八六五	元治2	3/23～	京 四条道場北ノ 小家	伊 勢 物 語	三段目（長尾=吉左衛門・琴 三吉）。	
一八六六	慶応2	3/18～	稲荷社内東芝 居	競 伊 勢 物 語 三段目	玉水のだん（筑前）、春日村の段（中 長枝、次 弥、切 咲）。	しのぶ（松江）、磯上豆四郎（玉蝶）、とらノ如八（玉之助）、春日の小よし（才治）、紀ノ有常（玉造）、在原業平（勢造）、井づゝ姫（玉八）。
一八六六	慶応2	4/20～	京 四条道場北ノ 小家	競 伊 勢 物 語 三段目	小よし住家の段（口 津賀子=庄之助、切 齡山翁=広左衛門・琴 常吉）。	
一八六六	慶応2	9	座 摩 社 内	競 伊 勢 物 語 三たん目	玉水淵のだん（口 八島、奥 大国）、春日村の段（口 春栄、中 富司、切 長尾）、妹背鳥草花のたはむれ（シテ 氏・ワキ 鳴門・ツレ 春栄、豆四郎ノ霊 吉田兵吉／しのふノ霊 吉田辰造／右兩人出つかひニ而相つとめ申候）。 ※角書「井筒／業平」。	しのふ・道行いつゝ姫・しのふの霊（辰造）、道行なり平・豆四郎の霊（兵吉）、どらのにやう八（兵吉）、春日の小よし（文吾）、紀ノ有常（兵吉）。
一八六七	慶応3	6	京 四条道場芝居	競 伊 勢 物 語	玉水のだん（相模）、小よし住家の段（中 むら、切 咲）。 ※角書「大和に井筒里／河内に生駒山」。	娘しのぶ（玉三郎）、豆四郎（玉助）、どらのにやう八（玉之助）、代官（玉松）、春日小よし（喜十郎）、紀ノ有常（玉造）、なり平（琴糸）、井筒姫（玉八）。
一八七二	明治5	11	松嶋文楽座	競 伊 勢 物 語 つゞき 二冊	玉水淵の段（口 豊、奥 三根）、春日村のだん（中 春栄、次 弥、切 古靱）。 ※「十一月十五日ヨリ廿四日間」「尚太陽曆採用ニナリ（十二月三日ヲ明治六年一月一日ト改正）一月興行トモナル」（『義太夫年表 明治篇』）。	春日野しのぶ（辰五郎）、磯上豆四郎（鹿造）、どらの鑊八（玉助）、文字摺小よし（辰造）、紀の有常（玉造）、在原業平（小玉）、井筒姫（玉枝）。

一八七四	明治7	2	京都 四条南側実伝 演劇	競伊勢物語 三段目	小よし住家の段（春戸、文字、古鞆）。	しのぶ（辰五郎）、豆四郎（辰太郎）、どらの 妙八（兵三）、川嶋典膳（才四）、小よし（東 十郎）、有常（金四）、成平（兵造）、井筒ひ め（新三郎）。
一八七五	明治8	9	堀江芝居	競伊勢物語 三段目	玉水淵の段（口春子、奥時）、春日むらの段（中春戸、次浪、切 春=*団平）。 ※「九月末ヨリ興行」（『義太夫年表 明治篇』）。	娘しのぶ（辰造）、豆四郎（冠十郎）、鏡の鉦 八（兵三）、川しま典膳（才吉）、母小よし （小辰造）、紀の有常（辰五郎）、なり平（専 十郎）、井筒ひめ（辰治）。
一八七五	明治8	11	竹田芝居	伊勢物語	三段目（春=団平）。 ※素浄瑠璃。	
一八七六	明治9	1/1~	天満大工町芝 居	伊勢物語	三（春）。 ※「浄瑠璃緑りの鉢植」の内。	
一八七七	明治10	2/13~	弁天座	伊勢物語	三（理）。三（新鞆）。 ※故人太鼓卯之助追善「過し日の／其年月も／めぐり来て 連営手向の 薫樹 礼拝三度」の内。 ※日程は番付欄外の墨書に拠る。	
一八七七	明治10	9	松嶋文楽座	競伊勢物語	玉水の淵の段（春子、組）、春日村の段（中路、次弥、切越 路）。 ※角書「大和之井筒里／河内之生駒山」。 ※「九月廿四日ヨリ廿六日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	むすめしのぶ（紋十郎）、右上豆四郎（玉 助）、鉦の鏡八（玉治）、代官川嶋典膳（松 江）、小よし（東十郎）、紀の有常（玉造）、 在原業平（辰吉）、井筒ひめ（玉太郎）。
一八八〇	明治13	6	道頓堀旭座	競伊勢物語 三の切	玉水の段（口綾賀、奥富）、小よし住家の段（口呂鳳、中源、切 綾瀬）。	むすめしのぶ（辰太郎）、豆四郎（富十郎）、 とらの仁兵八（駒十郎）、川嶋典膳（辰助）、 母小よし（辰造）、紀の有常（才治）、成平 （小友）、井つゝひめ（辰助）。
一八八二	明治15	11	京都 せいくわんじ 本堂前定席 夷谷座	競伊勢物語 三段目	小よし住家の段（嶋戸=滝造）。 ※浄瑠璃身振り。	
一八八三	明治16	6	松嶋文楽座	競伊勢物語	玉水の淵の段（口梶賀、奥谷）、春日村の段（中喜代、次浪、切 越路）。 ※角書「大和は井筒里／河内は生駒山」。 ※「六月十五日ヨリ七月十一日マデ廿八日間」（『義太夫年表 明治 篇』）。	しのぶ（紋十郎）、磯上豆四郎（亀松）、五作 （兵三）、ドラノ鏡八（玉助）、川しま曲膳 （紋之助）、母小よし（玉治）、紀の有通（玉 造）、在原業平（玉七）、井つゝひめ（紋之 助）。
一八八六	明治19	1/29~	彦六座	競伊勢物語 三段目	春日村の段（中山登、次源、切大隅）。 ※「二月十五日マデ十六日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	娘志のぶ（亀松）、磯の上豆四郎（三吾）、と ら鏡八（兵三）、川しま典膳（永寿）、母小よ し（才治）、紀の有常（兵吉）、有原や業平 （小三）、井筒姫（喜市）。
一八八八	明治21	9	御霊文楽座	競伊勢物語	玉水淵の段（口越代、奥綾）、春日村の段（中富、次路、切越 路）。 ※角書「大和に井筒里／河内に生駒山」。 ※「九月三十日ヨリ十月十九日マデ」（『義太夫年表 明治篇』）。	むすめしのぶ（紋十郎）、石上豆四郎（金之 助）、鉦の鏡八（玉七）、春日村小よし（玉 治）、紀の有常（玉造）、中将業平（卯三 郎）、井筒姫（紋光）。

一八九四	明治27	3	御霊文楽座	競伊勢物語	玉水池のだん(口 呂瀬、奥 さの)、春日村のだん(中 綾、次 路、切 越路)。 ※「三月十六日ヨリ四月九日マデ」(『義太夫年表 明治篇』)。	娘しのぶ(紋十郎)、悴豆四郎(玉助)、銅鏡八(幸三郎)、川嶋典膳(玉治郎)、母小よし(玉治)、紀有常(玉造)、在原業平(卯三郎)、井筒姫(玉六)。
一八九六	明治29	3/1~	稲 荷 座	□伊勢物語 三段目	玉水淵のだん(口 隅栄、奥 生嶋)、春日村小よし住家のだん(中 雛、次 春子、切 大隅=団平)。	娘しのぶ(玉松)、磯上豆四郎(養助)、どらのにう八(栄三)、小よし(清十郎)、紀の有常(駒十郎)、業平(門蔵)、井筒姫(玉松)。
△一八九六	明治29	7/15~	東京 新 声 館	伊 勢 物 語	玉水の段(綾路=扇八)、はつたい茶の段(鏝=豊市)、小よし住家の段(識=清九郎、綾瀬=団八・ツレ 仙太郎)。 ※演芸資料選書・5『東京の人形浄瑠璃』に拠る。	(不明)
一八九九	明治32	10	御霊文楽座	競伊勢物語	玉水池のだん(口 殿母、奥 七五三)、春日村のだん(中 小さな改 さの、次 文字、切 越路=*吉兵衛)。 ※「十月廿一日ヨリ十一月廿三日マデ」(『義太夫年表 明治篇』)。	娘信夫(紋十郎)、磯上豆四郎(金之助)、亭主吾作(松江)、鉦の鏡八(玉助)、川島典膳(玉治)、母小よし(玉五郎)、紀有常(玉造)、業平卿(助太郎)、井筒姫(栄三)。
△一八九九	明治32	12/25	京都 南 座	(伊勢物語)	春日村(越路=吉兵衛)。 ※竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△一九〇〇	明治33	8/1	京都 南 座	(伊勢物語)	春日村の段(越路)。 ※文楽座、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
一九〇二	明治35	2/1~	明 楽 座	競伊勢物語	玉水淵のだん(口 加賀、奥 小隅)、春日村小よし住家の段(中 角、次 春子、切 大隅=叶)。	しのぶ(玉五郎)、豆四郎(玉治郎)、鉦鏡八(栄三)、川嶋典膳(登治郎)、小よし(清十郎)、紀有常(玉松)、業平(玉治郎)、井筒姫(玉五郎)。
一九〇八	明治41	4/24~	堀 江 座	競伊勢物語	玉水のだん(口 一、奥 菅=助三郎)、春日村のだん(中 静=団次郎、次 長子=*八助、切 大隅=団平、此所人形出遣いにて御覧に入申候)。 ※「五月十五日マデ」(『義太夫年表 明治篇』)。 ※「玉水のだん・奥」「春日村のだん・中」「春日村のだん・切」の三味線は、『浄瑠璃雑誌』第67号に拠る。	娘しのぶ(亀松)、磯の上豆四郎(玉市)、銅羅の如八(政亀)、川嶋典膳(東吉)、母小よし(玉松)、紀ノ有経(兵吉)、在原業平(扉市)、井筒姫(小兵吉)。
一九一六	大正5	6/1~	御霊文楽座	競伊勢物語	玉水淵のだん(口 常子=*浅造、奥 源=*勝市)、春日村のだん(中 淀=*芳之助、次 古靱=*清六、切 越路=吉兵衛・琴 *吉雄)。 ※「二十日間 六月二十日打上」(『義太夫年表 大正篇』)。	娘しのぶ(文五郎)、磯上豆四郎(栄三)、茶店吾作(三吾)、鉦の丹舟八(玉治郎)、川嶋典膳(玉五郎)、母小よし(多為蔵)、紀有常(玉蔵)、業平卿(玉市)、井筒姫(政亀)。
一九三〇	昭和5	10/1~20	四ツ橋文楽座	競伊勢物語 玉水淵より 春日村の段迄	玉水淵の段(娘信夫/磯の上豆四郎一役毎日替 和泉/島・亭主五作一長尾/貴鳳・鉦の鏡八一町/鏡・代官川島典膳一綾・文字摺売おさき一源路/富・文字摺売おたに一浪花/文=団六/歌助)、春日村の段(中 相生=叶/猿糸、次 大隅=道八、切 古靱=清六・琴 団二郎/福太郎)。 ※千種楽は『文楽興行記録昭和篇』に拠る。	娘信夫(紋十郎)、磯の上豆四郎(政亀)、亭主五作(玉徳)、鉦の鏡八(玉松)、代官川島典膳(門造)、母小よし(文五郎)、紀の有常(栄三)、在原業平卿(光之助)、井筒姫(文作)。

一九三一	昭和6	9/8~12	東京 帝国劇場	競伊勢物語	玉水淵の段（和泉=歌助）、春日村の段（中 辰=団伊三、次 つばめ=仙糸、切 古鞆=清六・琴 団二郎）。	娘信夫（徳三郎）、磯の上豆四郎（門造）、亭主五作（玉造）、鉦の銃八（小兵吉）、代官川島典膳（玉徳）、母小よし（文五郎）、紀の有常（玉松）、在原業平卿（冠造）、井筒姫（文之助）。
△一九四八	昭和23	4/25	京都 西洞院にしき	競伊勢物語	春日野村小よし内の段（本語り語り手 友次郎=友造・琴 友千賀）。 ※第16回幕間友の会「浄瑠璃を聴く会 名人鶴澤友次郎氏に名曲を聴く」。 ※『幕間』昭和23年4月号・5月号に拠る。	
一九六一	昭和36	12/17~24	道頓堀文楽座 〈因会〉	競伊勢物語	玉水淵の段（口 綱子／相子=団二郎、奥 南部=錦糸）、春日村袖売りの段（伊達路=団六）、はつたい茶の段（老母小よし一大隅・太郎助実 は紀の有常一織の=徳太郎）、小よし住家の段（切 綱=弥七・琴 団二郎）。	娘しのぶ（栄三）、磯の上豆四郎（玉五郎）、亭主五作（文雀）、鉦の銃八（玉昇）、川島典膳（東太郎）、母小よし（玉市）、太郎助実 は紀の有常（玉助）、在原業平（小玉）、井筒姫（文雀）。
一九七四	昭和49	2/3~17	東京 国立劇場 小劇場	競伊勢物語	玉水淵の段（口 信夫一緑・豆四郎一津駒・ツレ 貴・三輪=叶太郎、奥 呂=吉兵衛）、春日村の段（中 相生=団六、次 咲=燕三//小松=錦糸、奥 文字=勝太郎・琴 勝之輔）。	娘信夫（簗助）、磯の上豆四郎（玉昇）、亭主五作（玉幸）、鉦の銃八（作十郎）、代官川島典膳（文昇）、母小よし（文雀）、紀有常（玉男）、在原業平（小玉）、井筒姫（一暢）。
一九八七	昭和62	7/3~19	国立文楽劇場	競伊勢物語	玉水淵の段（口 緑=浅造、奥 相生=団六）、春日村の段（中 英=錦弥、次 嶋=富助、切 住=清治・琴 清二郎）。	娘信夫（一暢）、磯の上豆四郎（玉松）、亭主五作（文吾）、鉦の銃八（玉幸）、代官川島典膳（作十郎）、母小よし（文雀）、紀有常（玉男）。在原業平（玉輝）、井筒姫（玉英）。
一九八七	昭和62	9/12~27	東京 国立劇場 小劇場	競伊勢物語	玉水淵の段（口 信夫一貴・豆四郎一三輪・お咲一津国・代官一津梅・銃八一文字栄・亭主+お谷一南寿=浅造、奥 相生=錦弥）、春日村の段（中 千歳=八介、次 嶋=富助、切 住=燕三・琴 清二郎）。 ※鶴沢燕三休演のため、「春日村の段・切」を鶴沢燕二郎が代演。	娘信夫（一暢）、磯の上豆四郎（玉松）、亭主五作（若玉）、鉦の銃八（玉女）、代官川島典膳（文昇）、母小よし（文雀）、紀有常（玉男）、在原業平（玉輝）、井筒姫（玉英）。
二〇〇八	平成20	4/5~27	国立文楽劇場	競伊勢物語	玉水淵の段（口 相子／つばさ=清道、奥 松香=清友）、春日村の段（中 咲甫=喜一郎、次 千歳=富助、切 住=錦糸・琴 清道）。	娘信夫（玉英）、磯の上豆四郎（簗二郎）、亭主五作（勘市）、鉦の銃八（幸助）、代官川島典膳（清五郎）、母小よし（文雀）、紀有常（玉女）、在原業平（玉翔）、井筒姫（紋吉）。